

平成29年度 第1回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】

平成29年5月19日（金）午後6時45分から8時30分まで

【場所】

学園都市センター11階 学生交流室・国際交流室

【出席者】

◎評議員

もりも ざちよう えんどうひようぎいん おかばやしひようぎいん かさいひようぎいん しんにん しゅれすた
森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、河西評議員（新任）、シュレスタ

ひようぎいん たにがわひようぎいん ちごのひようぎいん どみーひようぎいん まだわらひようぎいん
評議員、谷川評議員、児野評議員、ドミー評議員、マダワラ評議員

◎事務局

しみんかつどうすいしんぶ こうらぶちよう たぶんかきょうせいすいしんか あさおかちよう さくらいしゅさ やなぎさわ
市民活動推進部 小浦部長、多文化共生推進課 浅岡課長、櫻井主査、柳沢

しゅにん あべたしゅじ
主任、阿部田主事

【欠席者】

たてやまひようぎいん
館山評議員

【公開・非公開の別】

こうかい
公開

【傍聴人】

なし

【配布資料】

ひようぎかいしだい
評議会次第

資料1 八王子市多文化共生推進プラン改訂に係る基本的な考え方について

がくえんとしびじょん がいようばん
学園都市ビジョン（概要版）

はちおうじれがしーぶらん
八王子レガシープラン

資料2 八王子市外国人市民アンケート調査結果

資料3 市政モニターアンケート調査結果

資料4 外国人人口等データ

1 開会

しりようかくにん
《資料確認》

2 部長挨拶

こうらぶちようあいさつ
《小浦部長挨拶》

かさいひようぎいんしりようかい あいさつ
《河西評議員紹介、挨拶》

3 報告事項

ひようぎいん
評議員

- ・ 総務省が地域における多文化共生推進プランを公表してから10年が経過し、多くの自治体で多文化共生の推進に関するプランが作成されているところであるが、先日、総務省から多文化共生事例集が発表された。総務省のホームページからダウンロードできるが、100

ページ以上あるのですべて印刷することは大変である。その事例集には、先進的な取り組みが50以上掲載されているが、残念ながら八王子の事例は載っていない。今後の取り組みが載るように、多文化共生推進プランについて議論を活発に行っていきたい。

- ・次第の3、報告事項の「多文化共生推進プラン改定に係る基本的な考え方について」事務局より報告事項をお願いする。
《事務局より資料1を用いて説明》

評議員

- ・ただいまの説明に対して質問はあるか。

評議員

- ・日本の人口減少について、プランを推進することにより人口減少を食い止める、または、人口増加に転じる施策等は盛り込まれているのか？

事務局

- ・日本の人口は減少していく傾向にあるが、一方で外国人は増加傾向にある。八王子では外国人留学生が多く、若年層の外国人市民が多い特徴がある。少子化を補完するものとして、若年層の外国人の方々が活躍することを期待できる。八王子市多文化共生推進プランでは、外国人の活躍、特に若年層の外国人に活躍いただくことも念頭にいた内容盛り込み、改定を進めていく。

評議員

- ・プランの改定については、評議員から事前にコメントをいただいているので、資料を見てください。

4 意見交換

評議員

- ・続いて、次第の4、意見交換の「多文化共生推進プラン改定に係る基本的な考え方について」事務局より説明をお願いする。
《事務局より資料2、3、4について説明》

評議員

- ・外国語での回答も受け付けたのか。

事務局

- ・受け付けた。

評議員

- ・資料に記載している自由記述については、日本語に翻訳しているのか。

事務局

- ・ 翻訳している。

評議員

- ・ 中央大学にも留学生は多いが、市内在住者が少ない。おそらくアルバイトが関係しており、都内で働いているからではないか。創価大学に留学生が多いのは、大学内に留学生寮があるからではないだろうか。
- ・ 事務局からの説明への質問はあるか。

評議員

- ・ 市内で日本語教育に携わっているので、数字について補足させていただきたい。日頃関わっているのは、大学への進学が目的の留学生であるが、ほとんどは六大学への進学が困難なレベルである。一番成績の良い学生が、昨年、法政大学に進学した。市内の留学生数の数字が出ているが、大学進学の前準備が多く、進学場所、居場所のない学生が多い印象がある。個人の印象では、3年前に比べて3倍以上に増えている。今年は、1つの学校で1,000人は超える見込みもある。新たに、市役所の近くにも1つ開校すると聞いている。ここ数年、日本の大学に進学を希望して日本語を勉強している学生は、毎年100人単位で増えているのではないだろうか。一方で進学先がなかなか見つからず、日本中を探して、兵庫県や群馬県など様々なところを検討している。その間に、ビザが切れてしまうこともある。また、進学できないため、何とか就職をしようとする学生もいる。

事務局

- ・ 今回資料として提供はしていないが、在留資格が留学になっている外国人はここ数年で1,000人以上増えてきている。ただし、八王子の大学に通っていて、八王子に住んでいる留学生は、300人くらいしか増えていない。おそらくではあるが、その差が、日本語学校に通っている外国人の方々なのかもしれない。留学資格については、大学や短大だけではなく、日本語学校も対象となっている。

評議員

- ・ 留学生については、年齢が10代の学生は少なく、20代、30代が多い。これは、資料のグラフからも読み取れる。

評議員

- ・ 今年度はプランの見直しとなっている。これを踏まえ、ほかに意見はないか。

評議員

- ・ 年齢などに偏りが出ないように抽出をしているということだが、市政モニターは、65歳以上がかなり多い。回答者の年齢には偏りがあると思う。年齢の高い人は敬わなければならないが、これからの時代を担うのは若い世代なので若い人の意見を聞くようにしてもらいたい。

事務局

- ・市政モニターの抽出方法は、地域、年齢などに偏りが出ないようにまず500人を選び、依頼文書を発送する。この依頼に対して「市政モニターをやってもいい。」という意志表示があるのがおよそ200人と聞いている。この段階で年齢の高い層の人が多くなっているようだ。この200人の中から、地域、年齢などを考慮して最終的に100人に依頼している。

評議員

- ・資料3 1ページの表の見方としては、太字で囲まれている数字が回答者数ということで良いか。

事務局

- ・そのとおり。

評議員

- ・若い人の意見を聞きたいが、若い人は様々なことに対して無関心になる。

評議員

- ・資料2の外国人市民を対象としたアンケートを見ると、学校の連絡がわからないがいちばん多い。実際に、袋にたくさんの資料が入っているものを持ってきて、「読んでほしい」といわれることが多々ある。こういった現状のなかで、市としては具体的に対策をしているのか。

事務局

- ・現状、各課が通知を出す際に、事前に翻訳の依頼を受け、対応している。施策というよりは、教育委員会等からの依頼に、その都度対応していることが多い。

評議員

- ・学校からの通知は毎日たくさんあり、重要な通知を見つけることが大変である。その通知を学校の先生が翻訳したり、振り仮名を振ることは業務量を考えると難しい。例えば、家庭訪問時に、子どもについてだけではなく、保護者が通知が読めるかどうか確認するほか、重要な通知には、星印をつけるなどの工夫を教育委員会全体で統一行的に行っても良いのではないか。

評議員

- ・かながわ国際交流財団では、定型的文書を多言語にしたものを公開している。それを八王子市の教育委員会にも周知、共有できれば良いのではないか。

評議員

- ・市内の小学校では、PTAで国際部会を立ち上げ、日本に来て、ある程度の期間が経っている保護者が、来たばかりの保護者をサポートする部会を開催しているところがある。新しい外国人が入学した時に学校側がPTAに連絡している。八王子国際協会にも大量の配布物を持って内容の説明を求める保護者もいる。

評議員

- ・母親がすでに10年以上日本にいるのに、学校からの通知のうちどれが大切なものなのかわからなくなっている人もいます。重要度が簡単にわかるようにしてあげられたらいいと思う。
- ・母親に翻訳アプリを紹介したら大変喜ばれた。
- ・先生がひとりの子どもに手をかけていると、他の保護者からクレームがある。先生の立場もかわいそうに思う。本当にたくさんの手紙が毎日くるので重要な通知には印を付けることは良いと思う。

評議員

- ・学校の先生が、保護者がどのくらい困っているのか意識して手紙を出しているのかを確認しても良いかもしれない。事務局が教育委員会ときちんと話をし、前出のかながわ国際交流財団フォーマットの活用等を進めていく必要がある。

評議員

- ・先生の苦勞を察する。日本語学校では、X線の問診票を集めるのに非常に苦勞している。20代まで、そういったものを知らずに生活してきている人もいるので、理解してもらえない。学校で用意した言語はわずかで中東や東南アジアから来ている留学生の言語には対応できていない。

評議員

- ・新宿区の大久保小学校では学校便りを5カ国語で出している。とても先生の力だけで出来るわけではないので、全部ボランティアがやっている。早稲田大学との協働で、留学生を活用している。このやり方は、集住地区だからできることで、八王子は散在型なので難しいかもしれない。しかし、留学生がたくさんいるのだから活用することを考えねばならない。

評議員

- ・日本の留学生を受け入れる姿勢は、素晴らしいが、一方で、日本語学校や専門学校を卒業するだけの留学生は、その後、日本での居場所はほとんどない。母国に帰っても、仕事はあまりなく、日本に残ってアルバイトをしても生活するだけで手一杯になっている。中には、自殺をした例も出ている。こういう人が日本に残って、結婚して子どもを産んで生活を維持しているかどうか課題である。
- ・良い大学を出ることができれば、それなりに仕事がある。外国人でも難しくない。大学を出た優秀な留学生は、外国人だからという理由で就職ができなかったという話はほとんど聞かない。日本人と差はない。行政としては、日本語学校に絞って支援してもいいのではなか。留学生を誘致していくことは重要であるが、その後の支援をしていかないと、非常に中途半端な状況に置かれている人が増えているだけではないだろうか。

評議員

- ・私わたしもそう思うおも。大学だいがくで勉強べんきょうができるできるということは、日本語にほんごでレポートれぽーとが書けか、読解どっかいができる。大学だいがくで勉強べんきょうできるできるレベルレベルの留学生りゅうがくせいは、日本にほんの企業きぎょうからしたらからしたら、大歓迎だいかんげいの人材じんざいだ。企業きぎょうからは外国人がいこくじんを理由りゆうとして拒否きよひされるようなことはない。しかし、大学だいがくに入る前の予備軍よびぐんが大変な状態たいへんだ。
- ・生活せいかつ、就職しゅうしょく、子育てこそだ、まちの担い手等になてなどの対応たいおうについてこれまでのような個別こべつの対応たいおうではなく、ワンストップわんすとっぷでの対応たいおうが大切たいせつになる。

評議員

- ・日本語にほんごを学まなんでいる学生がくせいは、母国ぼこくで高校こうこうまで出でているのか。

評議員

- ・母国ぼこくでは教科書きょうかしょなどを使つかって日本語教育にほんごきょういくを受けている人ひとは多いおほ。学歴がくれきというところまではわからない。日本語学校にほんごがっこうでは、日本語にほんごの能力のりよくで振り分けるので、学歴がくれきは関係かんけいない。中には、母国ぼこくでかなり活躍かつやくしていた人ひともいるのかもしれない。国籍こくせき、年齢ねんれい、学歴がくれきなどのプロフィールはさまざま様々ふろふいーるである。

評議員

- ・日本語学校にほんごがっこうも様々さまざまなレベルレベルがある。最初さいしよから国立大学こくりつだいがくなど高いレベルたかの大学だいがくをめざしている人ひとばかりの学校がっこうもある。

事務局 櫻井

- ・日本語学校にほんごがっこうに通かよった学生がくせいについて、進学しんがく、日本にほんでの就職しゅうしょく又は就職しゅうしょくできずに母国ぼこくに帰かえる人ひとの割合わりあいはどうか。

評議員

- ・帰国きこくする人ひとは、留学ビザりゅうがくびざが取れない最低さいていレベルレベルの人ひと。日本語学校にほんごがっこうの目標もくひょうは100%進学しんがくをすること。地方ちほうの大学だいがくでは、日本人にほんじんの学生がくせいが減へっているので、勉強べんきょうしたいという留学生りゅうがくせいは大歓迎だいかんげいと聞きいている。兵庫ひょうごの学校等がっこうなどでは、日本人にほんじんの学生がくせいは減少げんしょう傾向けいこうであり、留学生りゅうがくせいを積極せつきよく的に受け入うれているところもある。ただ、留学生りゅうがくせいの多くおほは東京とうきょうでの就職しゅうしょくを望のぞんでおり、地方ちほうへの進学しんがくに消極しょうきよく的なこともある。

評議員

- ・アンケートの住みたくない理由りゆうで「職場しよくばが遠い」「都心としんから遠い」というものがある。八王子はちおうじには、21大学だいがくがあるのだから、八王子はちおうじの大学だいがくで学まなんだ留学生りゅうがくせいが八王子はちおうじで働はたらければ一番いちばんよい。企業きぎょうの誘致ゆうち等大など大きな問題もんだいになる。大学だいがくに限かぎらず、大学院だいがくいんで学まなんでいる人ひともいる。いわゆる高こう度ど人材じんざいだ。こういう人ひとが八王子はちおうじで働はたらくことで、地域ちいきも活かつ性せい化するため、そのようなシステムしすてむが構築こうちくされることが望のぞましい。

評議員

- ・留学生りゅうがくせいだけでは企業きぎょうへのアクションあくしょんは難むずかしい。行政ぎょうせいが留学生りゅうがくせいを受け入うれるよう企業きぎょうに

はたら 働きかけることも必要ではないだろうか。

評議員

- ・日本語学校で指導されている方が、学生から「結婚したい」という相談を受けたことがある。当初、その先生は、結婚ではなく、勉強するように指導したそうだが、最後には諦めた。人生は人それぞれという考えもあるが、勉強をして進学しても、あまり夢を語れない現状もあり、結婚したほうが、結果的に日本に残れるチャンスが増えることも考えられる。

評議員

- ・日本語学校で学び、日本語がうまくなったとしても、本人の基礎学力のレベルがないと大学に入れないのか。日本語学校で大学入学の勉強も出来るのか。

評議員

- ・日本語がある程度できるようになったら、基礎学力をつけさせるような勉強をさせるのか。

評議員

- ・多くの留学生は、本国では高校卒業以上の学歴で日本に来る。進学する学校も様々で、数学等でも高いレベルが求められることもある。数学等も教えるが、教える人材が不足している。

評議員

- ・日本語学校でも日本語以外の基礎学力を教えるところはある。例えば、大学院に進学するための学校も最近が増えてきている。

評議員

- ・日本語学校で学んでいてもその学力のレベルは様々だ。母国で高校を卒業していても学力は様々。

評議員

- ・それについては、日本人と同じ。

評議員

- ・資料1の基本方針、強化すべき取組みのところ。統計データをみると永住者は31%、留学生が27%、これらと特別永住者や家族滞在を足し合わせると70%以上となる現状がある。これから八王子に住む外国人、外国人の地域参加、外国人観光客について、八王子市はどうしたらいいかということについて、具体的に取組みについて意見交換するのはどうか。
- ・留学生支援は必要なことだ。就職支援に繋がるインターンシップの施策が良いと思うが、八王子には企業が無いので、都心や川崎、大阪などに送るのはどうか。インターンシップについての市の具体的な考え方はどういうものなのか。実際の詳しいところはまだないということが良いのか。

事務局

- ・具体的な施策については、3回目の評議員会で議論をしていきたいと考えている。

- ・八王子市は、企業はかなり多い。都内と比較すると大手企業や本社機能は多くないが、多摩地域でも数は多い。
- ・八王子に住んでいる人は、市内で働いている人が多いという傾向があり、職住近接という特徴がある。

評議員

- ・80年代までの工場移転で工場が増えた。その後、その工場が海外移転や閉鎖などによって減ったが、試験施設、研究施設などとして残っているケースはある。自立つとところが減っている。

事務局

- ・工場機能は無くなっても、試作品の作成や検査などは残っており、製造出荷額は減っているかもしれないが、試験場などはまだまだ残っている印象はある。

評議員

- ・市内の企業の数、業種等も資料があると議論が活発になる。
- ・八王子には多くの留学生がいるが、今までどのくらい八王子の企業に就職しているのか、そういったデータがあるといい。

評議員

- ・インターンシップ先の情報もあれば良い。

事務局

- ・市内の企業数や業種等の資料提供は可能である。
- ・市内の大学に通っている留学生がどのくらい市内で就職しているかどうかまでは難しいと思う。

評議員

- ・大学のキャリアセンターであれば把握している。過去の分もあると思う。
- ・実際に八王子市内に働く場があるとすれば、市内企業と留学生をつなぐ仕組みがないというところか。

事務局

- ・日本人の学生であっても、八王子の大学を卒業して市内企業に就職する学生は少ないと思う。
- ・市や商工会議所等の様々な関係機関が取り組んでいる。インターンシップや企業訪問、就職説明会を実施しているとの話は聞くが、実感できるほどの成果をあげられていないのかもしれない。

評議員

- ・TAMA協会では、大学生と中小企業とのマッチング会などは行っているが、外国人留学

生に特化したマッチング会は聞いたことが無い。そういったものがあってもいいかもしれない。求めている企業もあると思う。

評議員

・八王子は起業しにくい環境にあると思う。私も断念したことがある。日本人に対してもかなり保守的な環境であると感じる。外国人が増加している中、積極的な就職環境づくりを今から始めないと手遅れになる。

事務局

・雇用については日本人も状況は同じだと思うが、景気の回復等もあり、大企業指向が強まる傾向はあるが、市内の企業の9割以上は中小企業である。学生の大企業志向が非常に強まっている。中小企業に人が行くかと言うとおそらく見向きもせず、都内の大企業に行くので人が回ってこない。中小企業は人材が欲しくてしょうがない状況なので、外国人留学生向けのマッチングをすれば、優秀な外国人留学生が中小企業に就職するようになる。

評議員

・実際にどのようにマッチングができるか。行政がやるのか。企業と留学生とは誰が繋ぐのか。

事務局

・国際協会でやっていないか。

評議員

・協会ではセミナーや企業見学会を行っている。大学生の就職支援等については大学コンソーシアム八王子も行っている。中小企業は人を欲しがっているのに、日本語学校の学生に行き場がないという現状であれば、うまくマッチングが出来ないものかと思ってしまう。大学に通っている留学生は、キャリアセンターやコンソーシアムなどによって手厚い対応がされている。優秀な留学生は就職も大丈夫であるが、日本語学校の学生に行き場がない現状をどうにかしなければならぬ。日本に来て勉強をしたのに、その先がない。中小企業で人が欲しいのに、人が来ないのであれば、八王子にはチャンスがある。そのマッチングがとても重要ではないだろうか。これからの日本を支えるうえで外国人の活躍を期待するのであれば、どのように活躍する場を与えるかを考える必要がある。優秀な留学生に焦点を当てるのではなく、困っている留学生への支援が必要だ。

評議員

・知り合いの行政書士に聞いたところによれば、日本語学校を卒業しただけでは、就業できるビザが取れない。留学資格の変更が出来ないため、日本語学校と中小企業のマッチングの仕組みを作っても、ビザの問題が課題となるため、結局は専門学校や大学に行かなければ

ならないのではないだろうか。日本語学校の留学生と中小企業をマッチングさせても難しい問題がある。

評議員

- ・ビザ変更の条件がわからない。

評議員

- ・日本全体の労働者の問題である。政府がきちんと制度を決めれば、日本語学校から簡単に中小企業等、人が必要な企業に就職をすることができる。

事務局

- ・留学生が就職する場合には、基本的には学校で学んだ分野に関連する業種に就職することが在留資格を変更する条件となる。理系の学部を卒業し、営業職に就くことは難しい。日本語学校を卒業しただけでは、専攻科目がないから在留資格を変更できないかもしれない。

評議員

- ・母国で学んだことやスキルがあって、社会に貢献することができる人たちもいるため、そういったことを認めることができないか。能力に応じて仕事が出来れば良いと思う。

評議員

- ・今日は、様々な課題についてブレインストーミングをした。次回はテーマを決めて議論する。
- ・最後に言いたいことは、外国人への支援のことが話題にあがったが、多文化共生という視点に立つとマジョリティの側の日本人の意識が変わらなければならない。小さいころから大事。
- ・日本社会の中で弱い立場となってしまう外国人をサポートしなければならないが、一方で自助という考えもある。日本人が助ける側、外国人は助けられる側という線引きをするのではなく、日本で成功することができた外国人が後に続く外国人をサポートするようになってほしい。
- ・本日議論してきた内容については、今後具体的に検討をしていきたい。

5 事務連絡

- ・前回の議事録について
- ・個人番号の提出について
- ・次回の開催日程について 6月30日(金) 18:45～ 場所未定

その他

- ・今後の評議員会の開催について、終了時間を遅くし、議論の時間を確保する。
- ・次回以降は、テーマを絞って進めていくほうが良い。
- ・今後の評議員会の配布資料については、ルビ無しとする。